

第1学年 国語科（書写）学習指導案

第1学年 23名
指導者 湯浅 美佐子
黒田 京子

1 単元 かん字の 学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、書写学習に前向きに取り組んでいる。前期に行った書写に関するアンケートでは、全員が「文字を書くのが好き」「自分の書いた文字が好き」「もっと上手になりたい」と答えた。先日、四国大学の学生たちによる書道パフォーマンスを見る機会があった。お礼の手紙を書いた際には、相手を意識し、普段よりも丁寧に書こうとする姿が見られた。今後も、様々な学習活動において、文字で思いや考えを伝えるという場面は多い。自分の書いた文字が好きという思いをもち続け、文字を大切にすることを育む書写教育を進めていきたい。

これまでに児童は、「じを かく しせい」や「えんぴつの もちかた」を学習している。「姿勢と持ち方」は、全ての学習の基本であるとともに、生涯にわたって影響を及ぼすものである。よい姿勢とよい持ち方の定着は簡単なことではないため、合い言葉や書写体操で繰り返し意識付けを行っている。次に、平仮名（送筆や終筆の書き方や筆順、拗音・促音の書き方）や片仮名（送筆や終筆の書き方）を学習してきた。ぷいぷい体操をしたり、水書や砂文字、粘土、ホワイトボードなどの様々な道具を使ったりしてきたことで、書くことに関心を高めている。

本単元では、漢字の書き方を学習する。学習要素とその順序は平仮名の学習とよく似ているため、それぞれの学習を振り返りながら進めるようにしたい。さらに、新しく加わる「かくの ながさと ほうこう」では、横画や縦画、斜めの画の長さ、折れの方角という基本的な事項をおさえ、理解できるようにしたい。

本時は、文字の形の違いに気を付けて、正しく書くことをねらいとしている。前時の学習を振り返り、外形の違いを意識して「月」「七」「人」の練習ができるようにする。その際、ICT機器や色画用紙で作った形カードを活用し、視覚的に示す手立てとする。また、横長や縦長に書くためには始筆をどこにするとよいかを確かめさせる。さらに、相互評価（ペア活動）や自己評価を取り入れ、自分の文字のよさや成長に気付くことができるようにする。それらによって書くことへの意欲を高め、日常生活に生かしていこうとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- 漢字の送筆や終筆の書き方、画の長さや方向の違いを理解し、外形や書き順に気を付けて、正しく書くことができる。
- 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|--|
| ア | 知識・技能 | 漢字の送筆や終筆の書き方、画の長さや方向の違いを理解し、外形や書き順に気を付けて、正しく書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | ① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。 |

5 単元の指導計画（13時間）

- 第一次 かくの おわりの かきかた・・・2時間
第二次 かくの とちゅうの かきかた・・・2時間
第三次 文字の かたち・・・2時間（本時2／2）
第四次 かきじゅん・・・2時間
第五次 かきぞめ・・・3時間
第六次 かくの ながさと ほうこう・・・2時間

6 本時の学習

（1）目標

- 漢字の外形の違いに気を付けて、正しく書くことができる。
○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

（2）展開

| 過程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 （評価方法） | | | | |
|------|--|---|--------------------------------------|---|---|---|---------------------------|
| つかむ | 1 本時のめあてをつかむ。 | 1 本時の学習のめあてをつかませる。 | | | | | |
| | <table><tr><td>月</td><td>七</td><td>人</td><td>文字の かたちの ちがいに 気を つけて かこう。</td></tr></table> | | | 月 | 七 | 人 | 文字の かたちの ちがいに 気を つけて かこう。 |
| 月 | 七 | 人 | 文字の かたちの ちがいに 気を つけて かこう。 | | | | |
| 高める | 2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・形カード | ア文字の外形を理解し、外形の違いに気を付けて正しく書いている。（観察） | | | | |
| 確かめる | 3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。 | 3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・めあてを確認し、評価の観点を具体的に示す。 | イ②自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。（発言・観察） | | | | |
| 生かす | 4 学習したことを生かす。 | 4 本時の振り返りをし、普段の生活でも生かそうとする意欲を高める。 | | | | | |

（3）評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|----|---|
| ア | 漢字の外形をよく理解し、外形の違いに気を付けて、字形を整えて正しく書いている。 |
| イ② | 自分や友達の文字のよさを見つけて、進んで伝え合おうとしている。 |

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）

| | |
|----|-------------------------------------|
| ア | 練習用紙や形カードなどで視覚的に理解できるようにする。 |
| イ② | めあてを確認し、自分や友達の文字のよさを見つけれられるように助言する。 |

第2学年 国語科（書写）学習指導案

第2学年 24名
指導者 和田 真志
露口 恵理子

1 単元 かん字の 学しゅう

2 単元について

本学級の児童は、書写学習に意欲的に取り組んでいる。毎日の授業や宿題などでも、「とめ」「はね」「はらい」や「字形」「書き順」を意識して丁寧に書く努力をしている。特に、新出漢字の学習の際には、より丁寧に書こうとしている。6月に行った書写に関するアンケート調査では、ほぼ全員が「文字を書くことが好き」「字を書くことが上手になりたい」と答えた。その理由として「きれいに書けるとうれしい」「気持ちがいい」などの満足感や達成感、ほめられることによる自己肯定感の向上が挙げられていた。ただ、「自分の書いた文字は好きですか」の問いに対しては、否定的な意見が全体の約3分の1あった。その理由としては、「きれいじゃない」など、自分の文字に対する自信のなさがうかがえた。これらのことから、児童一人一人が自身の成長を実感でき、自己肯定感を高めていく書写学習を進めていきたいと考える。また、授業の際に姿勢が崩れることで文字の形が崩れてしまう児童もいるため、学習時の姿勢の改善も必要である。

本単元では、1年生で学習した漢字の始筆・送筆・終筆の書き方や、前単元の「かたかなの学しゅう」を生かして、一文字一文字の漢字の字形を整えて書くための学習を行う。字形の整え方の要素のうち、「へん」や「つくり」などの「文字の組み立て方」は3年生以上の学年で学習する。この段階で、字形を整える基本となる要素をきちんと理解し、習熟できるようにしておきたい。

本時では、「画の長さ」について学習する。整った文字を書く上で重要な要素である「それぞれの画の長短」を意識させたい。児童が文字のどの部分が長いか短いかを正しく認識し、整った文字を書く力を身に付けるように指導したい。その方法として、はじめに試し書きを行い自己課題の認識をさせる。その練習方法として、ICT機器や練習用紙を用いた書き方の視覚的な確認、砂を用いた指書きでの触覚的な確認などの複数の練習方法を用意する。そうすることで、児童が自分自身の課題解決方法をつかみ、自分で練習方法を選択できる主体的な学習としたい。最後に、まとめ書きで課題解決の評価を行う。ペアで確認する活動を通して、互いのよさや認め合う嬉しさを感じてほしい。そして、自分の文字を好きになり、自分の文字に自信をもってほしい。

3 単元の目標

- (1) 漢字の書き順や画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方・交わり方、文字の中心などの字形の整え方を理解して、正しく書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもって取り組み、自分や友達が書いた文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|---|
| ア | 知識・技能 | 漢字の書き順や画の方向、画の長さ、画と画との間、画のつき方・交わり方、文字の中心などの字形の整え方を正しく理解し、字形を整えて書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | ① 自分のめあてをもって意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合っている。 |

5 単元の指導計画（20時間）

| | | | | | |
|-----|----------------|---------|-----|-----------------|-----|
| 第一次 | 書き順・・・・・・・・・・ | 2時間 | 第四次 | 画のつき方と交わり方・・・・ | 3時間 |
| 第二次 | 画の方向・・・・・・・・・・ | 2時間 | 第五次 | 文字の中心・・・・・・・・・・ | 2時間 |
| 第三次 | 画の長さ・画と画との間・・・ | 3時間 | 第六次 | 年がじょうと書きぞめ・・・・ | 5時間 |
| | | (本時1/3) | 第七次 | 文字の形・・・・・・・・・・ | 3時間 |

6 本時の学習

(1) 目標

○画の長さの違いを理解し、正しく書くことができる。

○自分のめあてをもって取り組み、自分の文字と友達の文字のよさを見つけ、伝え合うことができる。

(2) 展開

| 過程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 (評価方法) |
|------|-------------------------------------|--|------------------------------------|
| つかむ | 1 姿勢を整え、試し書きをして、本時のめあてをつかむ。 | 1 姿勢の確認を行ってから試し書きを行う。 試し書きの後に電子黒板で文字の画の長さを変化させ、本時の学習のめあてをつかませる。 | |
| 高める | 2 めあてと各自の設定した課題に応じて練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるように練習用紙や指書きなどができるコーナーを作る。 ・チェックシート ・砂文字 ・なぞり書き用紙 ・教材文字のみ示した用紙 ・始点を示した用紙 | ア画の長さに気を付けて自分のめあてに応じた練習ができている。(観察) |
| 確かめる | 3 まとめ書きをして、ペアで交換し、友達の文字のよいところを見つける。 | 3 ペアでお互いのよかったポイントを見つけ、伝え合わせる。 | イ②お互いの字のよさを見つけて伝え合おうとしている。(発言・観察) |
| 生かす | 4 学習したことを生かす。 | 4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。 | |

(3) 評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|----|-------------------------------------|
| ア | 画の長さや文字のバランスを理解して、正しく書いている。 |
| イ② | 自分のめあてをもって、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合っている。 |

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）

| | |
|----|-------------------------------------|
| ア | 練習用紙などで画の長さや文字のバランスを視覚的に理解できるようにする。 |
| イ② | めあてを確認し、自分と友達の文字のよさを見つけれられるように助言する。 |

第5学年 国語科（書写）学習指導案

第5学年 35名
指導者 戒田 利彦
加治本 由美子

1 単元 文字の大きさ（漢字と平仮名）

2 単元について

本学級の児童は、自分のめあてをもって書写学習に取り組んでいる。お世話になった地域の人にお礼の手紙を書いたときは、感謝の気持ちを伝えるために文字の形を整えて丁寧に書こうと努力していた。6月に行った書写に関するアンケート調査では、全員が「字を書くことが上手になりたい」と答えていた。その理由として「きれいに書けるとうれしい・気持ちがいい」などの満足感や達成感、「自分自身や他者を意識した文字の読みやすさや伝わりやすさ」「友達や家族など、身近な人が書く文字への憧れ」などが挙げられていた。しかし、「自分の書いた文字は好きですか」の回答に対しては否定的な意見が多く見られ、「うまく書けない」「きれいじゃない」など、自分の文字への自信のなさがかがえた。これらのことから、児童が自他の成長を感じ、楽しく自信をもって書写学習に取り組んでほしいと考える。

第5学年では、これまで学習してきたことを振り返り、さらに発展させて今後につなげていく活動が大切である。既に学んだ「筆順と字形」、「中と外の組み立て方」などの学習を想起しながら、毛筆で「文字の大きさ（漢字と平仮名）」について学び、さらに硬筆の学習を通して日常生活へとつなげたい。

本単元では、「登る」を教材文字として平仮名は漢字より小さめに書くことや、文字の中心や余白に気を付けることを学習する。文字の大きさや形、配列を掴みやすくするために、外形シートや一画目の始筆だけを示したシートを準備した。それにより、一画目の位置に気を付けたり、中心を意識したりできるようになることから、児童が互いにアドバイスをし、自分のめあてが達成できる手立てとしたい。さらに、まとめ書きでは、大きさや配列、字形を意識した主体的な学習になるように、練習方法を選択したり自分で工夫して練習したりできるようにする。そして、活動の中で友達と交流したり、評価し合ったりして、高め合いながら学習を進める。その際、タブレット端末で前時に書いた文字と本時のまとめ書きを比較し、友達と交流することで、自分の書く文字を好きになり、自信をもって書いたり、日常生活に生かしたりしていこうとする態度を育てたい。

3 単元 の 目 標

- (1) 漢字と平仮名の大きさの違いについて理解し、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列を整えて書くことができる。
- (2) めあての達成に向けて意欲的に取り組み、自分や友達のよさを見つけて、伝え合い学び合おうとしている。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|---------------------------------------|
| ア | 知識・技能 | 漢字と平仮名の大きさの違いについて理解し、配列を整えて書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。 |

5 単元の指導計画（3 時間）

- 第一次 漢字と平仮名の大きさの違いや字形に気を付けて書こう。・・・1 時間
- 第二次 漢字と平仮名の大きさに気を付けて、配列を整えて書こう。・・・1 時間（本時）
- 第三次 漢字と平仮名の大きさに気を付けて、硬筆で字形を整えて書こう。・・・1 時間

6 本時の学習

- (1) 目標
- 漢字と平仮名のつり合いに気を付けて書くことができる。
- 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。
- (2) 展開

| 過程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 (評価方法) |
|-----|--|---|---|
| つかむ | 1 本時のめあてをつかむ。 | 1 本時の学習のめあてをつかませる。 | |
| 高め | 2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。(半紙の折り方など) ・互いにアドバイスし合いながら練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・ホワイトボード ・シート | ア漢字と平仮名のつり合いについてよく理解し、字形を把握して配列よく書いている。(観察) |
| 確かめ | 3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。 | 3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・まとめ書きをペアで確認する。 | イ自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。(発言・観察) |
| 生かす | 4 学習したことを生かす。 | 4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。 | |

(3) 評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|---|--|
| ア | 漢字と平仮名のつり合いについてよく理解し、字形を把握して配列よく書いている。 |
| イ | 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけ、進んで伝え合おうとしている。 |

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

| | |
|---|-------------------------------------|
| ア | 水書用紙や練習用紙などで視覚的に理解できるようにする。 |
| イ | 自分や友達のめあてを確認し、文字のよさを見つけれられるように助言する。 |

第6学年 国語科（書写）学習指導案

第6学年 28名
指導者 福本 淳子
青木 美恵

1 単元 文字の組み立て方（三つの部分）

2 単元について

本学級の児童は、書写学習に意欲的に取り組んでいる。運動会に向けて意気込みを書いた際にはこれまでの学習を生かして、生き生きと作品作りに取り組んでいた。人権集会の感想やお礼の手紙などは、文字の形を整えて丁寧に書こうとする気持ちがうかがえる。6月に行った書写に関するアンケート調査では、ほぼ全員が「文字を書くことが上手になりたい」と答えた。その理由として「きれいに書けるとうれしい・気持ちがよいなどの満足感や達成感」「自分自身や他者を意識した文字の読みやすさや伝わりやすさ」「友達や家族など、身近な人が書く文字への憧れ」などが挙げられていた。しかし、「自分の書いた文字は好きですか」の回答に対しては、否定的な意見が大変多く見られ、「うまく書けない」「きれいじゃない」など、自分の文字への自信のなさがうかがえた。これらのことから、児童一人一人が自他の成長を感じ自信を育む書写学習を進めていきたいと考える。

第6学年の児童は、これまで学習してきたことを振り返り、まとめたり発展させていったりする段階にある。既に学んだ「左右・上下の組み立て方」「中と外の組み立て方」などの学習を想起しながら、本単元では、「三つの部分の組み立て方」について学ぶ。

毛筆の教材文字「湖」を共通の土台としてポイントに迫り、硬筆の学習を通して日常生活へとつなげたい。硬筆では、三つの部分だけでなく左右・上下・中と外の組み立て方を扱い、たくさんの文字にふれることで一般化し、使える力に変えていきたい。また、高学年の学習では、筆使いとして「点画のつながり」が加わっていることから「湖」のさんずいについて次の画へのつながりや流れを意識して書くことができるように目指していく。

本時では、三つの部分の組み立て方について、それぞれの幅の違いや、点画の形の変化に気を付けて、字形を意識して書かせたい。その方法としてICTを活用し、児童に視覚的に示す手立てとする。児童が自分の課題をつかみ、練習方法を選択したり自分で練習方法を考えたりすることで主体的な学習となる。また、一人一人が自分のめあてをもち、友達と学び合う中で自他の成長を実感し書くことの楽しみを味わうことができるように、相互評価や自己評価の場を取り入れていく。自分の成長に気付くことで文字を書くことに対する自信や喜びにつなげたい。そして、書くことを楽しみ、学習や日常生活に進んで生かしていこうとする意欲や態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解し、三つの部分の組み立て方に気を付けて字形を整えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|--|
| ア | 知識・技能 | 三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解し、三つの部分の組み立て方に気を付けて書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | ① 自分のめあてをもち、意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。 |

5 単元の指導計画（3時間）

- 第一次 三つの部分の組み立て方について理解して、気を付けて書こう。・・・1時間(本時)
第二次 三つの部分の組み立て方に気を付けて、字形を整えて書こう。・・・1時間
第三次 左右、上下、中と外の組み立て方に気を付けて、硬筆で書こう。・・・1時間

6 本時の学習

(1) 目標

- 三つの部分の組み立て方に気を付けて書くことができる。
○自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

(2) 展開

| 過程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 (評価方法) |
|------|--|--|--|
| つかむ | 1 本時のめあてをつかむ。 | 1 本時の学習のめあてをつかませる。 | |
| 高める | 2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・動画 ・ホワイトボード | ア三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解し、三つの部分の組み立て方に気を付けて書いている。(観察) |
| 確かめる | 3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。 | 3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 ・まとめ書きをペアで確認する。 | イ②自分や友達のよさを見つけて伝え合おうとしている。(発言・観察) |
| 生かす | 4 学習したことを生かす。 | 4 本時の振り返りをし、次時の学習への意欲を高める。 | |

(3) 評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|----|---------------------------------------|
| ア | 三つの部分の組み立て方について理解して、気を付けて書いている。 |
| イ② | 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。 |

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

| | |
|----|------------------------------------|
| ア | 動画や練習用紙などで視覚的に理解できるようにする。 |
| イ② | めあてを確認し、自分や友達の文字のよさを見つけられるように助言する。 |

第4学年 国語科（書写）学習指導案

第4学年 30名
指導者 西沢 愛
松田 由貴

1 単元 ひらがなの筆使い

2 単元について

本学級の児童は、様々なことに意欲的に取り組んでおり、努力や思いを認められることがやる気にもつながっている。時に落ち着きがないこともあるが、書写の時間には集中し、目標に向かって取り組む姿が見られる。これまでの毛筆の授業では、筆の使い方やバランスを意識した文字の大きさに課題が見られるものの、「整った文字を書きたい」という思いが強く、机間指導で行った助言を意識しながら練習に励む姿が見られた。6月に行った書写に関するアンケートでは、多くの児童が「文字を書くことが好き」「文字を書くとき、見てくれる人を意識している」「文字を書くことが上手になりたい」と答えた。理由として「きれいに書けたらうれしいから」「見た人がいい気持ちになってほしいから」「きれいに書くとほめられるから」と答えていた。一方、「整った文字を書けないから」「読めないから」などの理由で、「文字を書くことがどちらかといえばきらい」や「自分の書いた文字がきらい」などと後ろ向きになっている児童も数名いる。このことから、書写学習を通して児童が前より整った文字を書けるようになったと自信をもてるようになることで、書くことに対する意欲や関心を高めていきたい。

本単元では、「はす」を教材文字としてひらがなの筆使いを理解し、字形を整えて書くことを学習する。前単元の「左右」では筆順にしたがって、字形を整えて書くことと画の長さにより外形が異なることを学習した。ひらがなの筆使いのなかで「結び」の筆使いや形の違いを理解させる。第一次では、横の結びの筆使いや横の結びと縦の結びの形のの違いに気付かせ、第二次では、一画目と二画目のつながりや交わる位置に気を付けて書くように意識させたい。第三次では、毛筆で学んだことを生かし、硬筆で字形を整えて書くとともに他の文字への応用にも広げていきたい。

本時では、ひらがなの筆使いに気を付けて書くことを意識させるために教具や場の工夫を行う。水書用紙や練習用紙等を使い、筆使いを確認できるコーナーを設置する。試し書きとまとめ書きを比べて自己評価、相互評価することで、自分の成長に気付いたり次時のめあてをもつことができたりすると考える。また、相互評価で他者から認められることにより、書くことに対する意欲を高め、日常生活に生かしていこうとする態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- (1) 横の結びとたての結びの違いについて理解し、結びの形と筆使いに気を付けて、字形を整えて書くことができる。
- (2) 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとしている。

4 単元の評価規準

| | | |
|---|---------------|---|
| ア | 知識・技能 | 横の結びと縦の結びの違いについて理解し、一画目と二画目のつながりや交わる位置に気を付けて、字形を整えて書いている。 |
| イ | 主体的に学習に取り組む態度 | ① 自分のめあてを考えて意欲的に取り組もうとしている。 ② 自分や友達の書いた文字のよさを見つけ、伝え合おうとしている。 |

5 単元の指導計画（3時間）

- 第一次 「結び」の筆使いに気を付けて書こう。・・・|時間（本時）
- 第二次 「結び」の筆使いや形のの違いに気を付けて、字形を整えて書こう。・・・|時間
- 第三次 「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で書こう。・・・|時間

6 本時の学習

(1) 目標

- 「結び」の筆使いを理解し、横の結びと縦の結びの形のの違いに気を付けて書くことができる。
- 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを見つけて伝え合おうとする。

(2) 展開

| 過程 | 児童の活動 | 教師の指導・支援 | 評価規準 (評価方法) |
|------|--|--|--------------------------------------|
| つかむ | 1 本時のめあてをつかむ。 <div><div>はす</div><div>「結び」の筆使いに気を付けて書こう。</div></div> | 1 本時の学習のめあてをつかませる。 | |
| 高める | 2 自分のめあてに向かって練習する。 ・自分のめあてに合った練習方法を選び、練習する。 | 2 めあてに合った練習ができるように支援する。 ・練習用紙 ・水書用紙 ・シート | ア結びの筆使いに気を付けて正しく書いている。(観察) |
| 確かめる | 3 本時のまとめをする。 ・まとめ書きをする。 ・相互評価や自己評価をする。 | 3 めあてに合ったまとめ書きや評価ができるようにする。 | イ②自分や友達のよいところを見つけて伝え合おうとしている。(発言・観察) |
| 生かす | 4 学習したことを生かす。 | 4 本時を振り返り、次時の学習につなげる。 | |

(3) 評価及び指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

| | |
|----|--------------------------------------|
| ア | 筆使いを理解し、縦の結びと横の結びの違いに気を付けて正しく書いている。 |
| イ② | 自分のめあてをもち、自分や友達の文字のよさを進んで伝え合おうとしている。 |

② 「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導（手立て）

| | |
|----|---|
| ア | 動画や水書用紙、分解文字などで視覚的に理解できるようにする。穂先の角度を意識するよう支援する。 |
| イ② | めあてを確認し、まとめ書きから自分や友達の文字のよさを見つけられるように助言する。 |